

SY3-1

若手による小児保健検討委員会の発足と取り組みについて

中山 祐一

大阪公立大学大学院看護学研究科

2019年6月に「若手による小児保健検討会」が開かれ、若手会員の新規獲得、多職種連携の促進、新たな活動や課題へ取り組む体制づくりなど、日本小児保健協会の活動の更なる活性化に向けた手立てについて検討された。そこで検討された項目について具体的に取り組み発展させていくために、2020年より若手による小児保健検討委員会（以下、若手委員会）が発足し、活動を展開している。

2023年4月時点で若手委員会は理事2名、委員19名で構成されている。若手委員会での議論により定められた本委員会の活動の目的は、「10年後に予測される小児保健上の課題を推測し、その課題に取り組む若手育成」、「魅力的な学術集会開催を通じた若手会員の獲得」、「多職種で子どもの問題に取り組むこと」、「多職種で議論する場の仕組み作りの場」である。これらの目的を達成するために、我々は全体での年2、3回の定例会に加えて、小児保健の魅力を上げる方策の検討をテーマにしたチーム、小児保健におけるICTの活用をテーマにしたチーム、障害児の未来をテーマにしたチームに分かれた活動も展開している。

小児保健の魅力を上げる方策の検討をテーマにしたチームでは、若手会員の獲得を目指し、次世代に向けた、より一層魅力的な協会活動について議論を重ねてきた。その議論の中で、魅力的な協会活動に取り組むためには、本協会の全会員のニーズを把握することが必要ではないかという提案がされ、2023年1～2月に全会員を対象としたニーズ調査を実施した。本シンポジウムでは会員ニーズ調査の中間報告を行い、いくつかの分析結果を提示しながら、より魅力的な協会活動につなぐ方策について議論したい。加えて、若手委員会の委員に登壇していただき、委員会活動を通して発見した小児保健の魅力および協会活動を活性化するための方策について討議を行う。

なお、本シンポジウムでは、聴衆の皆様にもこれまでの協会活動を思い起こし討議に参加していただけるように、ICTを用いた双方向型のディスカッションを企画している。このディスカッションを通して、様々な世代の会員と若手委員とともに本協会の魅力を再発見し、協会活動の更なる活性化・小児保健の魅力を未来へつなげる手立てについて検討したい。